

第133回東北地方交通審議会
船員部会議事要録

令和元年11月22日
東北地方交通審議会
船員部会事務局

東北地方交通審議会 第133回船員部会

日 時 令和元年11月22日(金) 13:30~

場 所 仙台第4合同庁舎 4階会議室

出席者 公益委員 : 高橋(真)部会長、増田部会長代理

豊田委員、佐々木委員

労働者委員 : 熊谷委員、高橋(雅)委員、鈴木委員

使用者委員 : 勝倉委員、白幡委員、平岡委員

運輸局 : 畠山海事振興部長、丹藤海事振興部次長

佐藤船員労働環境・海技資格課長

柳田船員労政課長、鈴木専門官、渡邊労政係長

議 題

(1) 管内の雇用等の状況について

(2) その他

(資料)

- 資料1 船員職業安定業務取扱状況説明資料(9月分)
- 資料2 新規求人・求職数(東北管内:3年対比)
- 資料3 有効求人・求職数(東北管内:3年対比)
- 資料4 新規求人・求職数(全国)
- 資料5 有効求人・求職数(全国)
- 資料6 有効求人倍率(東北管内)
- 資料7 有効求人倍率(全国)
- 資料8 新聞情報

◎開 会

【丹藤海事振興部次長】

〔第133回船員部会の成立状況について報告〕

〔配付資料の確認〕

◎議 事

(1) 管内の雇用等の状況について

【高橋（真） 部会長】

それでは、議事に入ります。

お手元にあります議事次第の「議題（1）管内の雇用等の状況について」、事務局から報告をお願いします。

〔柳田船員労政課長から資料1から資料7に基づき報告〕

【高橋（真） 部会長】

ありがとうございました。

ただいまの報告内容について、何かご意見、ご質問ありますでしょうか。

なければ、ご了承いただいたものといたします。

(2) その他

【高橋（真） 部会長】

続きまして、「議題（2）その他」に入ります。

委員の皆さんから情報提供をお願いします。

最初に労働者委員からお願いします。

【高橋（雅） 労働者委員】

前回もお話ししましたが、11月6日から11月8日までの3日間、全日本海員組合の今年度の定期全国大会が高松市のレクザムホールという香川県民ホールを会場とし行われました。その中で活動方針案に対して修正案が7本あり、結果的に修正案が3本採択され、また、決議案が2本上程され、その2本とも採択されました。一つは「本四架橋料金収受業務に従事する組合員の雇用と生活を守る施策を求める決議」、もう一つは「フェリー・旅客船の維持・存続を求める決議」で、この2本が採択されて3日間の大会を終わっています。

【高橋（真） 部会長】

ありがとうございました。

続きまして、使用者委員をお願いします。

【勝倉使用者委員】

以前もこの話が出たと思いますが、冷凍運搬船の長期滞船に絡む問題と、燃料油として、C重油から硫黄分が低含有の油を使うというSO_x規制の問題で、冷凍マグロ運搬船の使用する油、C重油も来年の1月から規制対象になり、A重油もしくはマリンガスオイルという油に変えなければならず、今、運搬船各社から、その燃料油の価格のアップに伴う運賃改正の話が出てきています。今、各社とも申し合わせたように一律の運賃の値上げになっていて、1トン当たり約1万円ほどの値上げであり、これによりキロ当たり10円、マグロの運搬にかかる運賃が上がることとなります。

それと、この夏場から2カ月、3カ月と、冷凍マグロ運搬船の荷役完了するまでの滞船が続いていて、それを回避するために、新たな航海から日本に帰港した際に長期係船を避けるため、ある一定期間を超えたときには1日幾らというデマレージがかかかりますという契約にかわる方向で動いています。それは1トン当たり1,000円という単価を言ってきたので、大体100トン積載すると1日当たり10万円のコストアップにつながっていくということで、来年以降の油の規制の問題に絡む運賃の値上げ、そしてこのデマレージの問題と冷凍マグロ業界では大きな話題になっています。

【高橋（真） 部会長】

ありがとうございます。そのほかありますか。

【平岡使用者委員】

人手不足の問題が各方面で叫ばれておりますが、ついに公務員にまで波及いたしました。海上保安庁が今年5月に実施した海上保安学校の船舶運航システム課程学生採用試験で合格者が890名出ましたが、そのうち75%に当たる665人の内定が辞退されました。また、新潟県、富山県、石川県の海域を所管する第九管区海上保安本部においては、内定辞退率が93%に上ったそうです。海上保安庁の一般職員養成機関・海上保安学校では、毎年2回、高校卒業者と高校卒業見込みの生徒を対象に採用試験を実施し、合格者は11ある管区のいずれかに配置を内示された後、原則1年間給料をもらいながら授業を受け、現場に配置されるそうです。なお、内示先はおおむね受験した場所で決まるということです。第九管区海上保安本部によりますと、公務員の志望者の多くは長期にわたる船上勤務やへき地勤務など海上保安官特有の労働条件を嫌い、国や県、市町村など一般行政職を優先しがちで、治安にかかわる公務員の中でも転勤の範囲が比較的狭い自治体の警察や消防に流れてしまうとのこと。さらに、地方より都会で働きたいという若者が多く、海上保安庁の中では東京や横浜を所管する第三管区海上保安本部に人気が集まるそうです。平成28年、政府が関係閣僚会議で大規模事案の同時発生に対応できる体制の整備を決定したことにより、海上保安官の定員増が続いており、今年度末の定員は1万4,178人に対し数百名規模の欠員が出ているそうです。

日本海事協会が、毎年山形県南陽市で中学生を対象に海の仕事のPR活動を行

っておりますが、酒田海上保安部も参加されております。このような活動を全国に展開し、小学生や中学生に海の仕事の重要性ややりがいをPRすることが大切だと思います。

【高橋（真） 部会長】

ありがとうございます。
ほかに、ありますか。

【白幡使用者委員】

先日、中央の協会の政策部会があり、全国から多くの方々が集まりました。その中で岡山の両備ホールディングスの社長と少し話す機会がありましたが、小豆島あたりでは400人くらいの卒業生のうち、島に残るのは20人くらいしかいないということです。だから、ほとんどの若者は都市部に流れてしまうということで、私のいる大島も実は橋が架かったことで、震災前は3,000人くらいいた人口が、今やもう2,400人を割っています。その最たるものがやっぱり四国で、四国は3本の橋が架かったことにより、その3本の橋で広島、岡山などの関西とつながり、この5年くらいの間に100万人くらい都市部に人口が流れるのではないかということです。

それと、やっぱり船や海に興味を持っても、また、先ほども話がありましたが海の資格をとっても、いざ乗るとなると、何か二の足を踏む子たちが非常に多いということです。それで、本当に日本人だけで今後の日本海運を賄うことができるのかなということを非常に心配していました。

だから、船員不足も相まって、特に離島航路は、5年後には、ほとんど有資格者がいないのではないかということです。80歳を過ぎた機関長が乗っている航路もあるみたいで、それだけ切実な問題なんだと思います。

【高橋（雅） 労働者委員】

確かに本部で調べたら、80歳を過ぎた方もいるようです。

【鈴木労働者委員】

遠洋マグロの機関長で84歳の方がいます。

【白幡使用者委員】

これまで、特に機関長を育ててこなかったと思います。また、機関長の資格をとる学科というのが極めて減ってきました。

【高橋（雅） 労働者委員】

そうです。向洋高校では、学校再編で船舶エンジンがなくなりました。今あるのは農業機械用と自動車のエンジンということです。

【高橋（真） 部会長】

とりあえず各県に1校くらいはあるんですか。

【高橋（雅） 労働者委員】

全ての県に1校はあります。

【高橋（真） 部会長】

そうすると2校、3校あったところが減らしているんですか。

【高橋（雅） 労働者委員】

そうです。岩手では、前は3校あったのが、今は宮古水産だけです。

【高橋（真） 部会長】

岩手は宮古水産だけ。宮城は、宮城水産だけですか。

【高橋（雅） 労働者委員】

宮城県は2つです。向洋高校も一応水産系の高校です。

【高橋（真） 部会長】

あるけれど、そこも減らし、今、機関関係があるのは、宮城水産だけですか。

【高橋（雅） 労働者委員】

そうです。あと小名浜の海星高校もあります。

【高橋（真） 部会長】

酒田や秋田はどうですか。

【高橋（雅） 労働者委員】

加茂水産高校はあり、2年生で甲板とエンジン、機関のほうに分かれますが、男鹿海洋高校はもうないです。

【高橋（真） 部会長】

そうですか。

【高橋（雅） 労働者委員】

教える学科はあるのに、要は5級の認定校を外れていて、専攻科もないので、皆、専攻科に行くときは宮古に行ったり、八戸に行ったりしています。

【高橋（真） 部会長】

方向に関していうと、当然ですが、学生が減っているから減らしたのかは別に

して、少なくとも教育機関自体が減っているのです、資格はとりにくいと思います。

【熊谷労働者委員】

やっぱり何よりも少子化で人口が減っているためです。

【高橋（雅）労働者委員】

前回、熊谷委員が言いましたが、いわき海星高校と、加茂水産高校のほうで統合の話が出ています。加茂のほうは、やはりその地域で生徒数が少なくなっているということで、普通高校と農業高校と加茂水産、この3つを統合する計画ということです。

【平岡使用者委員】

加茂水産と、どこですか。

【高橋（雅）労働者委員】

庄内農業高校と鶴岡中央高校だったと思います。

【熊谷労働者委員】

それと、いわき海星高校に関してですが、いわき海星高校と本当に300メートルくらいしか離れていない小名浜高校が統合という話が今出ています。

【高橋（雅）労働者委員】

やはり船員を育てる機関を残すべきだということで、海員組合としては統合には反対していくという活動方針を上げています。

【高橋（真）部会長】

わかりました。ありがとうございます。いろいろと大変な状況になっているようですが、先ほど勝倉委員から話があった、A重油やマリンガスオイルへの移行の話で、運賃も改正しなければならないという金額アップの話が出ましたが、これは経営的にはどうなのでしょう。

【勝倉使用者委員】

日本に入ってくる冷凍マグロの運搬船利用は約10万トンくらいあると思いますが、それからすると約10億円くらいのコスト増になります。そして、それは1社とか2社の話ではなくて業界全体での負担増という形になりますが、それにプラスして、滞船によるデマレージがどれくらい発生するのかというところも加えると、相当な金額になってくるのではないかなと思います。

ただでさえ資源の問題だったり、漁価の問題だったりと非常に大変なときに、新たにそういう問題が発生してきているということで、今日も気仙沼の遠洋マグロ漁船の第一昭福丸が、みらい造船で進水式を行うなど、我々の業界では今、あ

る意味造船ラッシュで、1年間に本当に次々とシリーズで建造されている状況ですが、その中でこのようなコスト増や、いろいろな資源の問題などが出てくると、そういう動きにブレーキがかかりかねず、また、経営も非常に厳しいことになってくるので、そういうところも注意が必要だと思います。

【高橋（真） 部会長】

これに関して、農水省などが窓口になり業界に対して補助金を提供するとかの話にはなっていないのでしょうか。

【勝倉使用者委員】

要は環境問題に端を発した問題なので、それはないと思います。

これは日本だけの問題ではなくて世界的な規制強化の話から来ているので、今の段階では、それに対しての国の補助という話が出てきていません。

【高橋（真） 部会長】

わかりました。ありがとうございます。

【増田部会長代理】

燃料をかえるのではなくて、技術的にエンジンを効率化させることはできないのでしょうか。

【勝倉使用者委員】

前にも話が出ましたが、ものすごく大きい外航商船とかは、その硫黄分を低減する装置を機関室につけるスペースもありますが、冷凍運搬船の場合は、積荷が大体2,000トンとか3,000トンクラスの船であり、貨物船の世界でいえばそれほど大きくないので、機関室もそれほど余分なスペースがないという中でそういう設備もできないことから、油の油種をかえていくという対応になりそうです。

【高橋（真） 部会長】

それは全部の船舶ですか。

【勝倉使用者委員】

全部の船舶です。

【高橋（真） 部会長】

平岡委員の業界の場合はどうですか。

【平岡使用者委員】

やはりローサルの重油への切りかえが、今月から始まっていて、普通の高サルの重油はなくなりました。一部大型船では、スクラバーという装置を持っている

船もありますが、函館でバンカーにしようとした時、500キロ以上でなければだめだといわれました。だから、大型船は500キロ以上であり、それ以下の場合は低サルの重油に切りかえています。

【高橋（真） 部会長】

では、ほとんどがもう切りかわっているということですか。

【平岡使用者委員】

切りかわっています。要するに、来年の1月からはそれを使ったらだめということなので、タンクの中を入れかえるためには1カ月、2カ月前から燃料をかえておかないとだめだということです。

ただ、運賃の値上げに関してはまだやっていなくて、価格もまだ1万円くらいという話しか聞いていません。

【白幡使用者委員】

新聞情報にもありますが、大型フェリーもそうです。

【平岡使用者委員】

高いということしか出ていないので、具体的に本当にいくらになるのかは、請求が来ないと分かりません。

【高橋（真） 部会長】

わかりました。結構大きな動きになりますね。

【勝倉使用者委員】

これはマグロだけではなくて、船舶全部にかかわることなので大きいです。

【高橋（真） 部会長】

わかりました。ありがとうございます。

そのほかございますか。

なければ、本日の議事は終了となります。

次回の船員部会は、12月20日金曜日、会場はここ4階の会議室になります。

◎閉 会